



システム MTU の設定

- [MTU について \(1 ページ\)](#)
- [MTU の設定方法 \(2 ページ\)](#)
- [システム MTU の設定例 \(4 ページ\)](#)
- [システム MTU に関するその他の関連資料 \(4 ページ\)](#)
- [システム MTU の機能履歴 \(4 ページ\)](#)

MTU について

イーサネットフレームで受信し、すべてのデバイスインターフェイスで送信されるペイロードのデフォルトの最大伝送ユニット (MTU) サイズは 1500 バイトです。

システム MTU 値の適用

次の表では、MTU 値の適用方法を示します。

表 1: MTU の値

設定	system mtu コマンド	ip mtu コマンド	ipv6 mtu コマンド
スタンドアロンスイッチまたはスイッチスタック	<p>system mtu コマンドはスイッチまたはスイッチスタックで入力できます。この操作はすべてのポートに影響を与えます。</p> <p>指定できる範囲は 1500 ~ 9198 バイトです。</p>	<p>ip mtu bytes コマンドを使用します。</p> <p>範囲は 832 ~ 1500 バイトです。</p> <p>(注) IP MTU 値は、適用可能な値ですが、設定できません。</p>	<p>ipv6 mtu bytes コマンドを使用します。</p> <p>指定できる範囲は 1280 からシステムジャンボ MTU 値 (バイト単位) までです。</p> <p>(注) IPv6 MTU 値は、適用可能な値ですが、設定できません。</p>

IP または IPv6 MTU 値の上限は、スイッチまたはスイッチスタックの設定に基づき、現在適用されているシステム MTU 値を参照します。MTU サイズの設定に関する詳細については、このリリースのコマンドリファレンスで **system mtu** グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.x 以降、IPv6 システムの最小 MTU は RFC 8200 により 1280 に固定されています。

MTU の設定方法

システム MTU の設定

スイッチドパケットの MTU サイズを変更するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	system mtu bytes 例： Device(config)# system mtu 1900	(任意) すべてのギガビットイーサネットと 10 ギガビットイーサネットのインターフェイスの MTU サイズを変更します。
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。
ステップ 6	show system mtu 例： Device# show system mtu	設定を確認します。

プロトコル固有 MTU の設定

ルーテッドインターフェイスのシステムMTU値を上書きするには、各ルーテッドインターフェイスでプロトコル固有のMTUを設定します。ルーテッドポートのMTUサイズを変更するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface interface 例： Device(config)# interface gigabitethernet0/0	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip mtu bytes 例： Device(config-if)# ip mtu 68	IPv4 MTU サイズを変更します。
ステップ 4	ipv6 mtu bytes 例： Device(config-if)# ipv6 mtu 1280	(任意) IPv6 MTU サイズを設定します。
ステップ 5	end 例： Device(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。
ステップ 7	show system mtu 例： Device# show system mtu	設定を確認します。

システム MTU の設定例

例：プロトコル固有 MTU の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1
Device(config-if)# ip mtu 900
Device(config-if)# ipv6 mtu 1286
Device(config-if)# end
```

例：システム MTU の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# system mtu 1600
Device(config)# exit
```

システム MTU に関するその他の関連資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
この章で使用するコマンドの完全な構文および使用方法の詳細。	<i>Command Reference (Catalyst 9300 Series Switches)</i> の「 <i>Interface and Hardware Commands</i> 」の項を参照してください。

標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 8200	『 <i>Internet Protocol, Version 6 (IPv6) Specification</i> 』

システム MTU の機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	システム MTU	システム MTU は、スイッチのすべてのインターフェイスで送信されるフレームの最大伝送ユニットサイズを定義します。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> [英語] からアクセスします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。